





## 統計調査員総合研修会

—— 平成12年度の国勢調査に向けて ——

### 研修会概要

去る、7月28日に、統計調査員と市町村職員併せて945名の出席のもと大宮町文化センター・ロゼホールにおいて「統計調査員総合研修会」が開催されました。この研修会は、平成12年度の国勢調査に向けて、指導的な調査員を育成するため統計調査に関する知識及び技術を付与することを目的としています。

研修会は、田上捷也県統計課長の主催者あいさつの後、県統計課勝村義光課長補佐から「統計調査のしくみ、調査員の仕事と心構え」についての講話があり、その後に、以下の方々の参加により「円滑な調査の進め方」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

城地 京子	日立市統計調査員
森田比米子	下館市統計調査員
斉藤 正博	土浦市統計調査員
長島 康友	水戸市企画課統計調査係長
天海 敏徳	県統計課主査

3人の調査員の方からは、それぞれ「統計調査員をやっていて、自分の人生が豊かになった」等の経験談や「調査員 口より心で 良い成果」等の心構えに関する俳句も発表されました。また一方において、統計調査の事前PR不足を指摘する厳しい意見も出されました。

水戸市の長島係長からは、水戸市の調査を支援する施策や水戸市統計協会の女性懇話会の発足の経緯と活動状況などの説明がありました。

会場からは、調査活動が難しくなっていることや、夜間訪問の対策等の質問があるなど、統計調査員の意識の高さが伺えました。

午後からは、中央調査社の千田英博部長から「面接技法と説得力の修得」についての講演がありました。調査拒否や不在時の対応策や服装、訪問時間帯等についての具体的な助言が参考となりました。

続く分科会は、3班に分かれて行われました。1班は「調査困難に対する処方策」について、2班は「統計調査広報のあり方」についてのグループ討議を行いました。3班は、茨城カウンセリングセンターの大築明生さんの「人を援助する姿勢」についての講演を受講しました。

後日、回収されたアンケートによると、今回の研修会は概ね好評を得たようです。調査員の方の感想の中には、パネルディスカッションやグループ討議の時間を延ばして、さらに活発な意見交換をしたかったといった前向きなものや、また、開催場所を数か所に分けて開いて欲しいといった要望が出されました。

研修会は、今後、国勢調査のある平成12年度まで、計3回、開催される予定です。

